

いつまでも住みよいまちに 13議員が市政を問う



一般質問

質問は3月3日、5日、6日の3日間で行われました。
(質問の順序は抽選で決められ、その順に各議員から提出された要約原稿のとおり掲載しています。)

文化行政の積極的推進は 文化振興計画2年で作成

岡本 茂樹 議員 (一新会)



大活躍中の桃園小ジュニアバンド

健康長寿社会の推進に
ついて。⑦高齢化の急伸状況

予防、健康の維持増進のため

健康増進計画
は、①健康寿命を維持増進させる対策はどうか。②健康増進計画や食育推進計画は、順調に進んでいるか。

健康福祉部長
⑦10年間で高齢化率は平成16年の15%から、25年には21.6

触れない理由は 施政方針で 原発事故に

国の判断内容だ

次田 典子 議員 (無会派)

福島原発事故は未だ収束せず、あらゆる生命の危機的状況だ。なぜ市長は施政方針の中で原発について一言も触れないのか。本市と福島県大飯原発とは80km弱しか

離れない。事故が起これば大変なことになる。福島原発近辺から市内に避難している方もおられる。市長の原発に対する認識を再度問いたい。

市長 原発依存から自然エネルギーへの転換を進めるとい認識は今も変わっていない。安全対策については国の



施設更新時期が迫る甘南備園

判断を受けて府や市町村が連携すべきと考える。施政方針では、デフレ脱却や人口増加を根拠に大盤振る舞いの当初予算となっている。消費増税後の消費低迷や経済失速が考えられる。生活保護費の引き下げや介護保険料の引き上げなど、高齢者や生活弱者、市民は今後どうしていけばよいのか。

市長 主な経済指標は確実に伸びていると思う。国民所得の向上から景気回復への好循環に期待したい。

市長 ファシズム的な日丸君が代強制の下では子ども

たちの伸びやかな感性を育てない。国旗・国歌法の拡大解釈を許さず、思想信条の自由を認めるべきだ。

教育長 学習指導要領においても児童・生徒の内心に立ち入り、強制するものではない。

大雪・大雨等の警報発令前後の登下校は危険だ。登校時間を遅らせるなど、安全な対応をすべきだ。

教育次長 校長・教育委員会の判断により実施している。

甘南備園建て替え検討委員会設置の約束も果たさず、市民の意見も聞かなくてはならない。引き続き学校予定地として確保しながら、土地利用の可否を検討してみたい。

危機管理監 市全体としては、防災計画の中で約5400人が短期の避難者として想定している。中長期に渡り確保は、仮設住宅用地の確保が問題となる。小学校予定地は有力な候補地だが、地権者である京阪をはじめ関係機関との協議が必要。

地域包括支援センターの愛称が「あんあん」と決まり第三の拠点として4月から宝生苑で開設される。市民への浸透策を問う。さらに、利便性向上のため、宝生苑に至

小学校予定地の活用は

避難所としては協議必要

鈴木 康夫 議員 (一新会)

山手南住宅地にある小学校予定地に学校が建設されるのは、かなり先になると予測される。それまでの間、広域避難所や、地域スポーツの

松井ヶ丘幼稚園前道路の開通計画を問う。

健康福祉部長 包括したよりの発行、介護予防体操の普及、介護予防ひろばや講演会の開催等さまざまな機会を捉えて取り組んでいく。また、平成25年11月に5事業者と協定を結び、高齢者宅で異変を感じた際は、本市に連絡してもらえる「山城をさと絆ネット推進事業」を始めた。

建設部長 26年度では、ルート、幅員、構造の検討、JRR軌道との調整等の調査設計業務に着手する。供用開始時期については、ルート選定、

「インターロッキングブロック(舗装)」の略。舗装用コンクリートブロックを互いにかみ合うように路盤へ敷設・舗装する方法で、ブロックには多様な種類・形状・色調のブロックがあり、柔軟性・走行性・抵抗性に優れている。なお、インターロッキングとは「かみ合わせる」という意味。

ゾーン30 (7面左8段目) 生活道路で歩行者等の安全な通行を確保することを目的として、区域(ゾーン)を定めて時速30kmの速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内における速度抑制や、ゾーン内を抜け道として通行する行為の抑制等を図る生活道路対策のこと。

通過交通のまちなみとされる中、原付バイク対象のご当地ナンバー採用を提案する。

市民部長 市の魅力発信する有力な手段と考えるが、PR効果、収納率向上、費用面など課題もあり、引き続き研究を重ねる。



小学校予定地として残されている土地 (山手南地区)